

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 10 月 13 日 (2005.10.13)

【公開番号】特開 2004-113234 (P2004-113234A)

【公開日】平成 16 年 4 月 15 日 (2004.4.15)

【年通号数】公開・登録公報 2004-015

【出願番号】特願 2002-327515 (P2002-327515)

【国際特許分類第 7 版】

C 1 2 N 15/09
A 0 1 H 5/00
C 1 2 N 1/15
C 1 2 N 1/19
C 1 2 N 1/21
C 1 2 N 5/10
C 1 2 Q 1/68
G 0 1 N 33/53
G 0 1 N 33/566

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
A 0 1 H	5/00	Z
C 1 2 N	1/15	
C 1 2 N	1/19	
C 1 2 N	1/21	
C 1 2 Q	1/68	A
G 0 1 N	33/53	M
G 0 1 N	33/566	
C 1 2 N	5/00	A

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 6 月 7 日 (2005.6.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

オオムギの「はるな二条」、「赤神力」、及び「H.spontaneum」の品種間で見出された一塩基多型 (SNP) を含むオリゴヌクレオチドであって、

配列番号 1 ~ 534 の何れかに表される DNA 配列において、塩基の表記が「ユニバーサルコード」で記載されている多型部位のうち、非同義置換を生ぜしめる多型部位の少なくとも一つを含み、少なくともプローブとして使用可能な長さを有している DNA 配列、またはその相補配列からなり、

上記多型部位またはその相補部位を 2 つ以上組み合わせ、あるいは、他の遺伝子マーカーと併せて植物の品種識別に用いられることを特徴とするオリゴヌクレオチド。

【請求項 2】

配列番号 1 ~ 534 の何れかに表される DNA 配列において、塩基の表記が「ユニバーサルコード」で記載されている多型部位のうち、非同義置換を生ぜしめる多型部位の少なくとも一つを含む 7 以上の連続した DNA 配列、またはその相補配列からなるオリゴヌク

レオチドをプローブとして少なくとも一つ固定化してなることを特徴とするDNAチップ

【請求項3】

配列番号1～534の何れかに表されるDNA配列において、塩基の表記が「ユニバーサルコード」で記載されている多型部位のうち、非同義置換を生ぜしめる多型部位、またはその相補部位の少なくとも一つに基づいて、被検体の遺伝子に生じた一塩基多型を検定又は同定する検定方法。

【請求項4】

配列番号1～534の何れかに表されるDNA配列において、塩基の表記が「ユニバーサルコード」で記載されている多型部位のうち、非同義置換を生ぜしめる多型部位、またはその相補部位の少なくとも一つを含有する遺伝子を単離する工程と、得られた遺伝子を遺伝子操作技術を用いて対象とする細胞に導入する工程とを含む形質転換体の生産方法。

【請求項5】

配列番号1～534の何れかに表されるDNA配列において、塩基の表記が「ユニバーサルコード」で記載されている多型部位のうち、非同義置換を生ぜしめる多型部位、またはその相補部位の少なくとも一つを含有する遺伝子を持つ親植物Aと、この遺伝子を有さない、あるいはこの遺伝子に一塩基多型が生じたアリルを有する親植物Bとを交配させて雑種の植物を作出する工程と、次いで、当該雑種の植物の中から前記遺伝子を持つものを、請求項1に記載のオリゴヌクレオチドの少なくとも一つを用いて、又は請求項3に記載の検定方法を用いて選抜する工程とを含んでなる形質転換体の生産方法。

【請求項6】

請求項4または5に記載の方法により生産された形質転換体。

【請求項7】

配列番号1～534の何れかに表されるDNA配列からなるポリヌクレオチドにおける、塩基の表記が「ユニバーサルコード」で記載されている多型部位のうち、非同義置換を生ぜしめる多型部位の少なくとも一つを含む領域、またはその相補領域の少なくとも一方を増幅し得るように設計されたプライマー。